

島根原子力発電所温排水影響調査（抄録）

安達二郎・石田健次・勢村 均・山田 正・曾田一志

島根原子力発電所の運転にともなう温排水が周辺海域に及ぼす影響を調査した。詳細については島根原子力発電所温排水影響調査研究報告書（島水試資料NO. 51）に報告されているので、ここでは水温観測結果の概要を述べる。

結果の概要

水温は温排水の影響が無いと思われる沖合域の5定点の水深別の平均値を基準水温として、これより1℃以上高い水温を温排水の影響があったと思われる定点、0.5～0.9℃高い水温を水温がやや高かった定点とした。

第1四半期（平成6年4月13日観測）：気象および海象は、天候が曇り一時快晴後晴れ、波浪が1～3、うねりが1～3、風向が西～南西、風速が2～12m/s、気温が9.3～11.2℃であった。発電出力は1号機が46万KW（放水量22m³/s）、2号機が82万KW（放水量60m³/s）であった。温排水の影響があったと思われる定点は定点6の0～3m層、定点7の0～5m層、定点9の1～4m層、定点10の0～2m層であった。また、水温がやや高かった定点は定点3の1～8m層、定点4の0～4m層、定点6の4m層、定点7の6～9m層、定点9の5、6m層、定点10の3m層、定点11の1m層であった。

第2四半期（平成6年7月4日観測）：気象および海象は、天候が曇～快晴、波浪が0～3、うねりが0～3、風向が南西～西、風速が0～12m/s、気温が20.7～26.9℃であった。発電出力は1号機が46万KW（放水量22m³/s）、2号機が82万KW（放水量60m³/s）であった。温排水の影響があったと思われる定点は定点4、7、10の0、1m層、定点5の1m層、定点6、9の0m層、定点8の0～2m層であった。また、水温がやや高かった定点は定点4、5、7の2m層、定点8の3m層、定点9の1～3m層、定点11、12の0～2m層、定点14の1m層であった。

第3四半期（平成6年10月26日観測）：気象および海象は、天候が快晴、波浪が0～1、うねりが1～2、風向が南、東～北東、風速が0～5m/s、気温が14.0～16.3℃であった。発電出力は1号機が0万KW（放水量1m³/s）、2号機が82万KW（放水量60m³/s）であった。温排水の影響があったと思われる定点は定点4の1m層、定点5、6の0m層、定点7、8の0～3m層であった。また、水温がやや高かった定点は定点4の2m層、定点6の1～5m層、定点7の4m層であった。

第4四半期（平成7年1月20日観測）：気象および海象は、天候が、曇り～晴、波浪が1～3、うねりが1～3、風向が西～南西、風速が1～9m/s、気温が6.3～8.2℃であった。発電出力は1号機が0万KW（放水量1m³/s）、2号機が82万KW（放水量60m³/s）であった。温排水の影響があったと思われる定点は定点5の0、1m層、定点7の0～2m層であった。また、水温がやや高かった定点は定点4の0m層、定点5の2m層、定点6の0、1、3m層、定点7の3m層であった。